

形成外科

● スタッフ（平成28年10月1日現在）

診療科長 松村 一
 医局長 小野 紗耶香
 病棟医長 佐藤 宗範
 外来医長 島田 和樹

医師数 常勤 14名
 非常勤 5名

● 診療科の特色・診療対象疾患

1. 特徴

1) 患者さんのNEEDsにあった治療方針を常に考えます
 例えば傷跡一つとってもそれに対する悩みは患者一人ひとりで違います。機能的に困っているのか、見た目が気になるのか、それとも痛みをなくしたいのかなど具体的な悩みに対して、それぞれにあった治療法を行います。

2) 低侵襲で高度な治療技術の導入
 いろいろな種類の創を対象に、人工真皮、培養表皮、局所陰圧閉鎖療法などの医療デバイスを用いて、極力患者の負担の少ない治療法を選択しています。

3) 他科と連携した診療を行います
 形成外科は頭の前から足の先までを対象とします。そのため疾患が多岐にわたることも多く眼科、耳鼻科、乳腺科、救命部、整形外科、脳外科、内科などとの連携を密に診療を行っています。耳鼻咽喉科、乳腺科との定期的なカンファレンス、口唇口蓋裂センターカンファレンスなどを行っています。

4) 外傷も積極的に扱う救急医療体制を確立しています
 顔面、手指の外傷、熱傷などの救急患者は応急処置から手術にいたるまで診療時間外でも受け付けています。

2. 主な診療対象疾患

1) 皮膚・軟部腫瘍や傷あとの治療
 皮膚、軟部組織の良性、悪性腫瘍の切除とともに、切除した組織欠損や変形に対する機能・整容的な再建を行っています。また、耳鼻科・口腔外科の頭頸部手術での組織欠損に対する皮弁形成術も多く治療しています。母斑、母斑症、血管腫などの色素異常に対するレーザー治療、瘢痕拘縮、肥厚性瘢痕、ケロイドなどに対する保存的治療、手術治療を行っています。

2) 顔面、手指の疾患・外傷の治療
 顔面の骨折、軟部組織損傷などの新鮮外傷のみならず、顔の瘢痕、醜形や陳旧性骨折の手術もを行っています。また、手指の外傷、顕微鏡下での指の再接着、手の機能の再建もを行っています。
 また、眼瞼下垂などの眼瞼の形成術・眼瞼腫瘍切除後の再建も積極的に行っています。

3) 先天奇形の治療
 唇裂、口蓋裂、合指症、多指症、小耳症などの先天奇形を数多く行っています。

4) 熱傷とその後遺症の治療
 熱傷専門医が機能、整容面も考慮した先進的な治療を行っています。また併設されている熱傷ユニットにて広範囲～全身熱傷の治療も行っています。

5) 難治性潰瘍
 糖尿病、血管閉塞などの疾患に付随して起こる難治性潰瘍、褥瘡、壊疽に対する集学的な治療を行っています。

6) 乳房切除後の再建
 乳がん治療と平行して乳房再建を行うための治療をおこなっています。乳房切除後の一次・二次再建を自家組織・組織拡張器、インプラント等を用いて治療しています。

● 診療体制と実績

14名の専属のスタッフで、形成外科疾患と他の診療科と共同で行う再建外科を行っています。この内、9名が形成外科学会専門医で、スペシャリティーとして、顎顔面外科学会専門医、熱傷学会専門医、手外科学会専門医、創傷外科学会専門医、皮膚腫瘍外科指導医が活躍しています。

入院・外来別の手術件数を下図にします。近年では眼瞼下垂（2014・15年は年間60件以上）などの眼瞼疾患、乳房再建手術（2014年47例、2015年67例）の増加が目立ちます。

手術件数（日本形成外科学会届け件数）

